

WEEKLY SIGNAL

平成28年10月28日(金) 1347号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/31(月)	11/1(火)	11/2(水)	11/3(木)	11/4(金)
無担保O/N			△0.086%	～	0.001%
銀行券	+ 600	ト ン	ト ン		ト ン
財政他	△ 16,200	△ 3,000	ト ン		+ 2,000
資金需給	不 15,600	不 3,000	ト ン		余 2,000
主な要因			法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税交付 交付税特会借入・償還		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 CP等買入 △ 2,200				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,700 CP等買入 + 3,500 ETF買入 + 500	国債買入 + 5,100 短国買入 + 10,000		休日	
(日本)	日銀金融政策決定会合(1日目) 鉱工業生産指数(9月)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁会見 展望レポート 当面の長期国債の買い入れ の運営	マネタリーベース(10月) 営業毎旬報告 (10月31日現在) 基調的なインフレ率を捕捉する ための指標(9月) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		日銀当座預金増減要因 (11月見込み)
(海外)	米 個人支出・所得(9月) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月) 欧 ユーロ圏CPI(10月)	米 ISM製造業景況指数(10月) 米 FOMC(1日目)	米 ADP雇用統計(10月) 米 FOMC声明発表 欧 ユーロ圏製造業PMI (10月改定)	米 週間新規失業保険申請 件数(前週分) 米 ISM非製造業景況指数 (10月) 欧 ユーロ圏失業率(9月) 欧 ECB経済報告 英 英中銀金融政策発表	米 貿易収支(9月) 米 雇用統計(10月) 米 フィッシャーFRB副議長講演 欧 ユーロ圏総合PMI(10月改定)

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ～ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ～ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ～ 0.001
SPOT 6M	△0.06 ～ 0.001

＜インターバンク＞

今週の日銀当座預金残高は、週初313兆4,700億円から始まり、25日に国庫短期証券買入・国債買入オペ等で317兆5,000億円まで増加し、週末は317兆2,600億円となった。無担保コールON物は、昨週から大きく変動せず、週を通して概ね△0.06～△0.03%で取引された。同加重平均金利は△0.044～△0.040%で推移した。ターム物は1～2W物が△0.035～△0.020%で取引された。

28日に実施された国庫短期証券買入オペは1兆円のオファーで、21日実施分(オファー額2兆5,000億円、応札倍率1.60倍)と比較し1兆5,000億円減額の1兆円となった。落札結果は応札倍率1.55倍、落札額1兆1億円、按分利回り較差△0.009%、平均利回り較差0.000%であった。

来週の材料は、国内では日銀金融政策決定会合(10月31～11月1日)、展望レポート(11月1日)があり、海外では、米連邦公開市場委員会(FOMC、11月1日～2日)が挙げられる。

＜オープン市場＞

CP3M(a-1+)	0.000 ～ 0.005
TDB 3M	△0.300 ～ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ～ 0.000

＜CP＞

今週の入札発行額は約12,600億円で、期落ち額約8,000億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。今週も、卸売や石油、カードと幅広い業種で大型案件が見られた。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。

＜TDB＞

27日に国庫短期証券3M第642回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2456%(前回債△0.2493%)、平均落札レートは△0.2568%(同△0.2545%)と前回債と比べてほとんど変化は見られなかった。セカンダリーは3Mで△0.27%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合は見られず、1Yは△0.29%近辺の地合いとなっている。来週2日に3Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GC取引は先週に引き続き△0.09%台の出合から始まり、週央まで同水準で推移。月末取引となる31日受渡では、SNで△0.10%の出合いが散発的に見られたが、TNでは△0.09%台まで上昇した。11月受渡となる週末のSNもレート水準に大きな変化はなく、△0.09%近辺が出合いの中心となった。

SC取引では、10年344回債の引合いが多く見られ、週後半には△0.10%台半ばから後半で取引されていた。10年338回債は週末にビッドが増加し、△0.20%台の出合いも見られた。他では5年127・128・129回債、10年341・343・344回債、20年156・157・158回債、30年50・51・52回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。